

令和8年度 児童朝会 35 講話

令和8年6月15日 【助詞 2】

みなさん、おはようございます。校長先生の言葉は皆さんの心に届いていますか。

いよいよ今週には公開授業がありますので、いつも以上にぼっくん清掃をがんばって、きれいな大宮西小学校を見ていただきましょう。

さて、先週のお題「どうして文章では文字がいくつかなくても意味がわかってしまうのでしょうか？」に文字は目で見えるけど、音楽は耳できくだけだからというような答えもありました。ほとんど正解に近いかと思います。さすがですね。

正解は、文章は「文脈」、文のすじみちが見えるからということになります。

こちらは中尾清月堂というどらやきやさんのポスターなのですが、何か困ったことはありませんか。

みまなさに だじいな おらしせ。
こたのび なかおせいげどつうが
ぜたついに ばれないように
どやらきの リニューアルを
おなこいました。
ちみなにこのぶんしょうのじんごばんも
ばれないようにいわれています。



中尾清月堂

よく見ると、めちゃくちゃな文字の並び方なのに、なんとなく意味はわかります。これが文脈があるということです。

さらに、言葉は特に最初の文字と最後の文字さえあっていれば、意味が通

ってしまうこともわかっています。

たとえば、

「おおやにみししょうがっこう」と書いてあれば、大宮西小学校と読んでしまいがちです。

また「おおみやにしょうがっこう」のように一文字抜けていても、なんとなく意味はわかってしまいます。このような現象をタイポグリセミアと言います。

これらは、間違えて読んでも意味が通るのでいいのですが、中には違った意味になるときもあります。

たとえば

校長先生は敵だ！

ここにある1文字を足すと、まったく逆の意味になります。

これを今週のお題とします。何という文字をどこに入れると、反対の意味になるでしょうか？

わかったよという人は、校長室前のボードに書きにきてください。

今日も最後まで聞いていただき、ありがとうございました。